2008 北京オリンピック・パラリンピック 筑波大学報告会

附属中学校副校長　角田睦男

平成21年1月16日（金）「2008年北京オリンピック・パラリンピック筑波大学報告会」が北京オリンピック・パラリンピックのメダリストをお招きして開催されました。ご来校願ったのは、アテネ及び北京オリンピック柔道2連覇の金メダリスト谷本歩実選手、水泳メドレーリレー銅メダリスト宮下純一選手、北京パラリンピックで2つのメダルを獲得し、通算6回のパラリンピックで合計21個のメダルを獲得した河合純一選手でした。附属中学校の全校生徒615名が3名の選手をお迎えし、育鳳館（本校講堂）で約2時間にわたる報告会を熱心に聞き入りました。

当日は筑波大学副学長・附属学校教育局教育長、谷川彰英先生のご挨拶から始まり、藤堂良明校長による講師のご紹介、3選手の北京オリンピックの報告と中学生諸君（未来のメダリスト達）に寄せる熱いメッセージを頂きました。

宮下選手からは「憧れを持ち続けることの大切さ・確かな自己訓練こそが自信を生み出す」ということ、谷本選手からは「夢を持ち続けることの素晴らしさ・『自分は必ずできる』と思いこむことの重要性」、そして河合選手からは「今の自分をしっかりと見つめることが夢を実現する出発点になること」を中学生諸君に分かりやすく語っていただきました。第2部は筑波大学准教授山口香先生（ソウルオリンピック銅メダリスト一女性版『姿三四郎』の異名をとった名選手一）の司会による3選手を交えたトークショーが行われ、和やかな中にも示唆多い内容の濃い会にすることができました。今回の企画は筑波大学人間総合研究科教授吉田章先生のご尽力によるものでしたが、筑波大学、茗渓会、東京オリンピック・パラリンピック招致委員会の全面的なご援助によって実現しました。中学生にとってまさに「心の糧」となる素晴らしい会にできたと思っています。ご尽力、ご協力頂いた先生方に深く感謝申し上げます。

《編集後記》

今回は、「学校教育の先導的な役割を担う」ということで、附属高校と附属駒場高校から、まさに「先端を走る実践」をご紹介していただきました。どちらも新しい試みというばかりでなく、広く国際社会へも目を向けている点も驚かされました。ご紹介ありがとうございました。

さて、100年に一度といわれる金融危機の中、新年がスタートしました。社会科の歴史が専門であった私は、今年も、NHK大河ドラマを楽しみにしていました。初回での主役である直江兼続と主君との会話の中で「蔵の宝より身の宝、身の宝より心の宝。金も大切ですが、人を思う心なくして幸いは、ありません」との台詞に感動！ いかなる時代、状況であっても、「人を思う心」「共に育つ心」など、「心こそ大切」であると。本年も教育現場の中で本当に大切なものを、しっかり見つめ、子どもの幸福のため、じっくり歩み続けようと、“心”に誓いました。　（根本文雄）

ポローニア paulownia vol.14

発行日……平成21（2009）年1月31日
発行者……附属学校教育局教育長 谷川彰英
発行所……筑波大学附属学校教育局 広報誌
ポローニア編集委員会
〒112-0012 東京都文京区大塚3-29-1 電話 03-3942-6800
編集委員長……江口勇治
編集委員……西川公司・田中輝美・石川満佐育
五味貴久子・根本文雄・藤田祐嗣
デザイン……スピーチ・バルーン
印　刷……広研印刷　使用紙：U-lumax mm［日本製紙］

新しい附属学校の教育のかたちを求めて

～学校教育の先導的役割の推進に向けて～

ポローニア paulownia

vol.14

筑波大学附属学校教育局
http://www.gakko.otsuka.tsukuba.ac.jp/